

公安委員会定例会議(第17回)の開催状況

第1 日 時 令和5年7月5日(水)

午後3時40分 ～ 午後4時39分

第2 出席者 五葉委員長、曾我部委員、佐伯委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、刑事部長

交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長

生活安全企画課長、総務課長

第3 議事の概要

1 佐伯委員説示

本日は、日清戦争中に刊行された内村鑑三の著書「代表的日本人」に登場する上杉鷹山についてご紹介します。

上杉鷹山は、米沢藩主上杉重定の世継ぎとして10歳で養子になりました。上杉家は、もともと会津120万石の大名でしたが、鷹山が養子になった時には15万石の小さな大名に成り下がり、何百万両もの負債を抱え、藩の総力を挙げても五両の金も工面できない状況でした。

鷹山はこの絶望的な状況から藩の立て直しを図ります。

まずは率先垂範して倹約を始め、女中を50人から9人に減らし、自分の着物は木綿に限り、食事は一汁一菜を超えないようにするなど、藩主自ら家計を切り詰め、こうした倹約生活を16年間にわたって続けました。

2つ目に鷹山が取り組んだのは適材適所の人材配置です。封建制で世襲が基本の時代でしたが、行政、教育、警察の3つの分野に積極的に優秀な人材を配置しました。中でも鷹山は、「社会の基盤として重要なのは秩序であり、教育、行政も規律を欠けば効果は上がらない」と考え、警察制度の構築に勤しむとともに、「廻村横目(警察のこと)は、閻魔の正義、義憤を示し、心には地蔵の慈悲を失うな」と指示し、警察のあるべき姿を示しました。

3つ目に取り組んだのは起業です。侍たちを平時には農民として働かせ、荒廃地の開墾、漆、桑の木の植樹等に当たさせたほか、高齢者には鯉の養殖に従事させました。また、長距離の用水路を建設し、当時日本で最も貧乏であった米沢藩が、最も大きい土木工事を完成させました。20年を要する難工事でしたが、この業績は偉大で東北地方全体でも米沢藩だけは、今日まで水不足に見舞われたことがないそうです。

このようにして米沢藩の財政事情等はみるみる回復し、非常に豊かな藩になりましたが、鷹山が米沢藩立て直しの基盤に置いたのが警察の機能です。私は「社会の秩序が守られて治安が確保されることにより初めて教育も行政も効果が上がる」という鷹山の考え方にとっても共感を覚えました。

時代は移ろうとも、警察が社会基盤の維持・発展にとっても重要な役割を担っていることに変わりはありません。県警察の皆様も、誇りと使命感を大切にして、悪と対峙する厳しさの中にも慈悲の心を忘れず、職務に励んでいただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和5年第16回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和5年度警察官（高校卒程度）及び警察事務職員（初級）の採用募集活動

警務部長から、令和5年度警察官（高校卒程度）及び警察事務職員（初級）の採用募集活動について報告があった。

委員から、「先日参加する機会があった署協議会においても委員から採用募集活動を応援する声が上がっていた。採用募集は地道な活動の積み上げである。今後も良い人材を採用できるように努力を続けていただきたい」との発言があった。

委員から、「厳しい採用環境の中、高い倍率を維持できているのは県警察の努力の成果であると思う。高倍率を維持できるように継続して採用募集活動に取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「警察活動の中には女性が活躍できる場面が増えているため、引き続き女性警察職員の積極的な採用をお願いしたい」との発言があった。

(2) 緊急雇用安定助成金不正受給詐欺等事件被疑者の逮捕

刑事部長から、緊急雇用安定助成金不正受給詐欺等事件被疑者の逮捕について報告があった。

委員から、「社会に『不正行為をすれば捕まる』という警鐘を鳴らした事案である。今後もこうした不正受給は増える可能性があり、取締りを徹底していただきたい」との発言があった。

委員から、「大切な税金が本当に困っている人に届くように、徹底した捜査により不正を正していただきたい」との発言があった。

委員から、「粘り強い緻密な捜査を推進することにより、余罪の有無や組織性を含めた全容を解明いただきたい」との発言があった。

(3) 令和5年上半期における交通機動隊の主な活動及び訓練状況

交通部長から、令和5年上半期における交通機動隊の主な活動及び訓練状況について報告があった。

委員から、「去年は、全国白バイ安全運転競技大会で優秀な成績を残した。訓練・練習をしっかりと積んで、今年も好成績を残してほしい。活躍を期待している」との発言があった。

委員から、「しっかりと訓練に励むとともに、怪我のないように任務に当たっていただきたい」との発言があった。

委員から、「女性隊員を含めてしっかりと訓練をしてほしい。今後の活動に期待している。また、本県内における自転車の安全利用を啓発することも重要と考えている。バイシクルユニットとも情報を共有し、自

転車利用者に対する指導にも配意してほしい」との発言があった。

(4) 「外国人支援連絡協議会愛媛」第17回定期総会の開催

警備部長から、「外国人支援連絡協議会愛媛」第17回定期総会の開催について報告があった。

委員から、「外国人技能実習生の就労環境は昔と比べて良くなっているが、金銭面の問題から失踪事案が多い。関係機関等と情報を共有するなど官民が連携して各種対策に取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「せっかく来日した外国人技能実習生が加害者にも被害者にもならないように対策を講じていただきたい」との発言があった。

委員から、「外国人技能実習制度は難しい課題もあるようだが、関係機関と連携し、失踪者や事件・事故に巻き込まれる外国人が増えないよう取り組んでいただきたい」との発言があった。

4 その他

本部長から、「委員説示において、「警察は社会基盤の維持に重要な役割を担っている」、「悪と対峙する厳しさの中にも慈悲の心を忘れてはならない」とのお話をいただいた。前者のとおり、治安が悪ければ、県民が安心して生活することはもちろん、安心して働くあるいは子育てすることもできないため、社会全体がうまく機能しない。そうした意味で治安を守るといふ警察が担う役割は非常に重要だと感じている。また、後者のとおり、警察が被害者の無念を忘れることなく事件を捜査することや被害者に寄り添った支援活動に取り組むことも非常に重要である。悪には厳しく対峙しつつも、善良な市民のために活動を推進する必要があることから、『厳しだけでなく慈悲の心を持つ』という精神を職員にしっかりと認識させて、誇りと使命感の醸成につなげてまいりたい」との発言があった。

以上